

日語的「未完遂」事態表現之研究

黃其正

應用日語系助理教授

摘 要

在日語的未達成事態裏有「未遂行」、「未完遂」、「未完成」的事態表現，這些事態的語言表現形式，主要是透過「-そこなう」、「-あぐねる」、「-損じる」等的造語形態來表現。本研究的主要目的，是延續黃(2013)的研究，以未達成事態中的「未完遂」事態表現為對象，來研究日語中，語言表現者是如何利用這些言語形式來表現「未完遂」事態的規則。

本研究是黃和(2013)相同，以石井(2007)所提案的「《アスペクト・ヴォイス》モデル」的觀點為依據，把「未完遂」事態分「語彙的レベル」和「文脈的レベル」二段階來進行考察。在「語彙的レベル」裏面，通過檢討「-そこなう」、「-あぐねる」、「-損じる」是如何和其它的動詞相接續？接續後所形成的複合動詞是擁有什麼意義、什麼樣的文法機能？綜合地來研究其彼此間的相互差異。來明白在「語彙的レベル」裏面，日語「未完遂」事態的語言事實及規則；另一方面，在「文脈的レベル」裏面，將研究的視點放在「未完遂」事態的成立背景，在研究結果當中，不僅清楚了「-そこなう」、「-あぐねる」、「-損じる」所形成的「未完遂」事態的異同，也透過與「未遂行」事態的比較，更明白了這兩種未達成表現，在日語的表現中的相異之處。

關鍵詞：未達成事象構造 <結果可能>の未達成プロセス
未完遂 語彙概念構造(LCS) 事象表現機能



未達成事象における「未完遂」の一研究

黄其正

應用日語系助理教授

要 旨

日本語の未達成事象表現へのアプローチとして、本研究は「-そこなう」・「-あぐねる」・「-損じる」を対象に、未達成事象のひとつである「未完遂」事態を明らかにするものである。

本研究は、黄(2013)の「未遂行」事態の研究に続き、「未完遂」事態を「語彙的レベル」・「文脈的レベル」の二段階にわけて考察した。基本的に「語彙的レベル」では「-そこなう」・「-あぐねる」・「-損じる」がどのような V1 と接続するのか、どのような LCS をもつのか、その異同の検討を通して、それぞれが接続する V1 の性質を明らかにした。一方、「文脈的レベル」では、それぞれの事態が成り立つ背景に着目し、三者の異同を明らかにした。また、各レベルでは、未達成語彙の「未完遂」表現の異同を分析すると同時に、「未遂行」表現と比較しながら両表現の相違をも合わせて検討したのである。

キーワード：未達成事象構造 <結果可能>の未達成プロセス
未完遂 語彙概念構造(LCS) 事象表現機能



1. はじめに

本研究は、日本語の未達成表現研究の一つである。黄(2013)で「未遂行」表現をとりあげ、「-そびれる」・「-そこなう」・「-あぐねる」¹の相違を検討した。「未遂行」表現と「未完遂」表現は、＜結果可能＞の未達成プロセスにおいては、外部事態の進行状態の一局面を表現するものである。「未遂行」表現は 1)～4)のように「動作主が何かをしようとしたが、結局行動に移すことができずにいる」という「事態の不履行」であるが、「未完遂」表現は、5)～7)のように「動作主が何か動作を実行していたが、目的の状態にまでは到達していない」という事態の進行状態である。

1)また、年賀状などで赤ちゃんの誕生を知り、出産祝いを贈りそびれた²場合は、初誕生にお祝いを贈りましょう。

www.studio-alice.co.jp/family/hatutanjyo.html

2)今朝も起きそこなってしまった。これで第 1 回から第 3 回までの放送を見逃してしまったことになる。

terriot.blog40.fc2.com/blog-entry-295.html

3)なかなか時間の都合が合わず参加しあぐねてたのですよ。しかも前もってイベント内容も知りもしないで、とりあえずアフロだけ被って飛び入り参加。 sakumira.exblog.jp/m2005-12-01

4)6 時ごろゴミ出しの準備をはじめたのですが、外のゴミ置き場がすごい惨状に…。以前までは午後に収集に来ていたのが午前 8 時に変更になったところ。みんな慣れずに出し損じることがしばしば…

itoguchi.clueroom.com/?month=200806

5)昨日の夢は友達の車に乗っていたら、友達がハンドルをきりそこなって民家の壁にぶつかりそうになる夢。

¹ 「-そこなう」と「-そこねる」または「-あぐねる」と「-あぐむ」の間に表現上の相違がないため、本研究では「-そこなう」および「-あぐねる」を例に分析する。なお、言語単位のレベルの相違を示すために語構成要素を「 」、文の直接構成単位である語を「 」で表示する。

² 例文の下線は筆者による。



6)その日の夕暮れ時、年の頃なら二十を超えた辺りであろうか、若い僧が佇み、道に迷ったのか行きあぐねているところに出会ったのである。

www.fsinet.or.jp/~hsuzuki/TOKUSA.HTM

7)Dreamcast 版デスクリムゾンO Xが発売されました。アーケード版との大きな違いとして、撃ち損じると残弾が減るバレットモードを搭載。

www2.117.ne.jp/~mat/news_dc.htm

動作の実行にさしかかる「未遂行」の局面と異なって、「未完遂」は動作の進行の局面に着目するものである。1)~7)からわかるように、「-そこなう」・「-あぐねる」・「-損じる」の未達成語彙に「未遂行」と「未完遂」の表現がある。ここに二つの問題がある。ひとつは、「未完遂」の段階においては、これらの未達成語構成要素の間にどのような異同があるのか、それぞれどのような特徴をもつのか。もうひとつは、「未遂行」表現との間にどのような相違があるのか。本研究ではこれらの問題をあわせて検討する。

以下、黄(2013)と同じく、「未完遂」事態を「語彙的レベル」・「文脈的レベル」の二段階にわけて考察する。基本的に「語彙的レベル」では「-そこなう」・「-あぐねる」・「-損じる」がどのようなV1³と接続するのか、どのような語彙概念構造(Lexical Conceptual Structure:LCS)をもつのか、その異同の検討を通して、それぞれが接続するV1の性質を明らかにする。それから、「文脈的レベル」では、それぞれの事態が成り立つ背景に着目し、三者の異同を明らかにする。各レベルで「未遂行」表現の性質を分析すると同時に、「未完遂」表現の場合と比べ、両者の相違を検討する。以下、考察に入る前に、未達成事象に関する言語的事実をもう一度確認する。

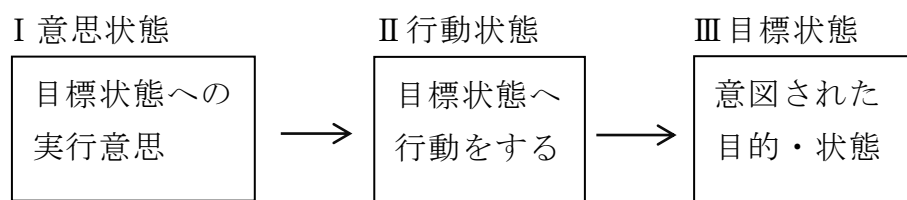
³ 動詞複合語の前項動詞のことである。



2. 未達成事象へのアプローチ

黄(2011)では、張(1988)の「結果可能表現」をもとに<結果可能>の事象構造を提案し、8)のようなプロセスを導き出すことができるとされる。<結果可能>プロセスは、まず動作主に目標意思があること（Ⅰ）から、この目標意思のもとである動作を起こして行動をつづけること（Ⅱ）によって、最後に目的とした結果状態に到達するようになるもの（Ⅲ）である。<結果可能>プロセスのなかで目的とした結果状態に到達する前に、何かの原因でうまくいかない段階を「未達成」状態としてとらえ、<結果可能>の未達成プロセスとみなされる。この<結果可能>の未達成プロセスにより「未達成」の事象構造を9)のように三段階にわけている。

8) <結果可能>プロセス



9) 結果未達成の三段階

「未遂行」：「動作主が何かをしようとしたが、結局行動に移すことができずにいる」ように事態の不履行を表すものである。

「未完遂」：「動作主が何か動作を実行していたが、目的の状態にまでは到達できていない」ように事態の進行状態を表すものである。

「未成功」：「動作主が何かの動作を実行したが、希望したとおりの動作の結果状態となっていない」ように事態の不成功を表すものである。

<結果可能>の未達成プロセスおよびそれに基づいた未達成の三局面をふまえ、1)~7)のように「未遂行」・「未完遂」を表現する場合、「-損じる」・「-あぐねる」・「-そこなう」の間に、それぞれどのような異同



があるのだろうか。たとえば、「未遂行」を表現する場合と「未完遂」を表現する場合、「-そこなう」はどのような相違がみられるのか。すなわち、「未完遂」表現を表す「-損じる」・「-あぐねる」・「-そこなう」の間の異同だけでなく、「未遂行」の場合との相違をも考慮に入れるべきである。

また、黄(2013)には「未遂行」の未達成語構成要素の造語力を検討するために利用されたものがある。それは、石井(2007)が提案している《アスペクト・ヴォイス》モデルである。主に未達成の語構成要素がどのようなV1と結合するのかを検討する場合に利用されている。本研究の論議とかかわるのあるものはV1の造語成分の分類で、表1のように示しておく。

表1 アスペクト・ヴォイスにかかわる語彙的意味にもとづく造語成分の分類

| | | | | |
|---------------------------------|--------------------------|-------------|-----------|---|
| 「～ている」という形をとらないか、とつても「状態」しか表せない | 《主体の状態》を表す | 「有る」「居る」… | 自 | ① |
| 「～ている」という形で「動作の継続」を表す | 《主体の動作》を表す | 「歩く」「踊る」… | 自 | ② |
| | | 「言う」「書く」… | 他 | ③ |
| | 《主体の動作》と同時に《客体の変化》をも表す | 「上げる」「集める」… | 他 | ④ |
| 「～ている」という形で「変化の結果の継続」を表す | 《主体の変化》を表す | 「固まる」「崩れる」… | 自 | ⑤ |
| | 《主体の変化》が伴う 《主体の動作》を表す | 「着る」「かぶる」… | 他 (再帰) | ⑥ |

以下、表1の分類に基づいて、「未完遂」表現における未達成の語構成要素が結合するV1の性質を探ってみる。それと同時に「未遂行」の場合と比べてその異同を明らかにする。



3 語彙的レベルにおける「未遂行」段階の相違

ここでは、語の構成段階において「未完遂」表現を表わす未達成語彙の相違について考察する。以下、それぞれの LCS の類似性および結合する語構成要素の性質に重点をおいて分析する。その分析をしたあと、「未遂行」表現の場合と比べて、その相違を検討する。

3.1 V1 の事態の相違

ここでは、「未完遂」を表現する場合、「-そこなう」・「-あぐねる」・「-損じる」がどのような V1 と接続しやすいのか、どのような未達成語彙が形成されやすいのかを比較したい。以下、前後の使用状況をあわせて、それぞれが接続する V1 を 10) ~12) のように表示しておく。

10) [-そこなう]: [動詞連用形__]

- ②集合時間に遅刻して、ツアーに参加しそこなう者があとを絶たない；椅子を引いて座りそこなってひっくり返った；寝られないというより寝そこなった；一生懸命走ったが列車に乗りそこなった；.....。
- ③ことに眉となるとすこしでも描きそこなうととんだことになる；押しそこなうとアプリが応答しない；閃光手榴弾を投げそこなった動画；水たまり避けそこなって片足がぼちゃグレ；相手の攻撃を防ぎそこなった...
- ④ステージ内に隠されている人質を助けそこなう；子どもの本当の心を育てそこなうおそれがあります；テープをはがしそこなう；店員が客にアイスクリームを渡しそこなって落とした；開けそこなうと指を挟む；.....。

11) [-あぐねる]: [動詞連用形__]

- ②迷い道を歩きあぐねた末；残雪のために進みあぐねていた；直線は伸びあぐねるも最後まで一生懸命な走りで 8 着；強風でヒヨドリが飛びあぐねて；泣きあぐねる光ちゃんを連れてバス停へ向かう；.....。
- ③守りが堅く攻めあぐねた；技術者自身が使いあぐねる機械；1 リットルを過ぎたあたりから飲みあぐねている；観客の待ちあぐねたショウ



は幕をあけた;地図を見めぐねている私;…。

④タイミングが上手くつかめず進めめぐねていました; 中盤は追加点を取りめぐねた;加速と直線の速いレプリカを抜きめぐねてる ZRX1200R; 東北の再建にかかる費用を政府が集めめぐねている;……。

12) [一損じる] : [動詞連用形]

②跳び箱を飛び損じた; 首を吊ったらヒモが切れて死に損じた人;椅子に座り損じ尻餅を付いた時;屋根に登り損じて接骨院通い; 勝ちに恵まれず勝ち損じてきた; 30年こんな世界を知らなかったなんて生き損じた気がする。

③甘いストレートだったが、打ち損じてしまった; 描き損じると修正に手こずって;貼り損じてても簡単に元に戻せる;音を弾き損じていても気が付かない聴衆;……。

④靴下にプレゼントを入れ損じ落下したサンタ ; 吉田さんにそのバトンを渡し損じました ; うち下ろす剣先を返し損じ左の肩先に傷を負った ; ゴミ箱に入れ損じたゴミ;ドアを開け損じた衝撃 ; ……。

＜結果可能＞の未達成プロセスにおいては、未達成の語構成要素が接続する V1 は、原則として主体動作の具象的な性質を備えながら継続することが前提である。それは、「動作主が何か実行したが、目的の状態にまでは到達していない」外部事態の進行状態によるのである。すなわち、「未完遂」の局面では、「具象的動作」と「動作実行の進行状態」の二つの要素が含まれる。それゆえ、「未完遂」表現に関しては、心理的・思考的性質の V1 と接続することがない。また、動作の継続という性質を欠ける瞬間動詞も比較的接続しにくいものと思えるが、実際にこれらの動詞は「未完遂」表現として表わすことがある。その場合、「未遂行」表現と間にどのような異なった特徴があるのだろうか。

13) 当たり前かもしれないが、TVで観るネイティブのアンカーマンや俳優たちの流暢に聞こえる話も、実は（おそらく日本人以上に）咬むわ、つままるわ、どもるわ、言い間違えるわ、言い損なっていい直すわなのだ。

nodo-journey.blog.so-net.ne.jp/2011-08-23



14) 「暑いですね」「そっすね」

本題を言いあぐねているかのように、彼は木を見上げた。

www.pixiv.net/novel/show.php?id=1565013

15) ラジオを聴いていると、DJ さんで「話し損じる」ことが多い人が、よく、「また噛んでしまいました。」とか、そういうことを繰り返した時に、「噛みまくっておりますが・・・」などと言いつてしていることがありました。

DJ さんでなくても、話し損じた時にこういう表現をすることがあるようですが、実際に舌を噛んで言い損じたワケではありませんよね。

casieste.blog.fc2.com/blog-entry-219.html

13)～15)の「未完遂」事態は、「未遂行」事態と比べれば、二つ異なる点があることがわかる。ひとつは、V1 の事態に対する言語話者のとらえ方に相違がみられることである。たとえば、同じ V1 (言うという行動) であっても、「未遂行」表現は始動前の局面、「未完遂」表現は進行中の局面に言語話者が視点を置いてとらえるのである。「開始→進行→終了」という発話行為全体としてとらえるのではない。それゆえ、同じ V1 の事態表現でも、言語話者のとらえ方によって 16) と 17) のように「未遂行」と「未完遂」に分化していく。

16) 東名・厚木インターで降りる予定が大型トラックの行列渋滞で降りそこなった。 www.city.atami.shizuoka.jp/page.php?p_id=749

17) 降りようかどうしようか迷っているうちに降りそこなった。

ameblo.jp/tabino-kakera/day-20101012.html

同じ [降りそこなう] で「降りていない」という事実を表現するのに、16) と 17) のように異なった外部事態を表現するのである。16) は「降りようとしたが、結局できなかつた」が、17) は「降りる機会を逸し、結局降りないことになった」のである。厳密に言えば、前者は動作主が動



作を実行しようとしたが動作が完成していないというような「未完遂」の事態表現であるが、後者は動作主が行動を実行する前の「未遂行」の事態表現である。

もうひとつは、意味の異なりがみられることである。たとえば、言外の意味を考慮にいけない場合、「未遂行」の「[言い損なう]」は「[言い忘れる]」の意味合いであるが、「未完遂」の「[言い損なう]」は「[言い間違える]」のようである。これは、未達成局面の相違とかかわりがあると思われる。言語話者のとらえ方によって、始動前の局面に視点をおく「未遂行」表現ならば「～忘れる」、動作進行の局面に視点をおく「未完遂」表現ならば「～間違える」という意味になるのである。同じことは「-あぐねる」と「-損じる」の場合にも言えるだろう。以下、13)～15)を例に、それぞれの意味の相違を観察すると、18)のようになる。

18) 「未遂行」と「未完遂」における意味の相違

| 未遂行 | 未達成語彙 | 未完遂 |
|--------------------|----------|---------------------------|
| 言い忘れる | 「言いそこなう」 | まちがって言う。言い誤る |
| 言いたいことをずっと言い出せないこと | 「言いあぐねる」 | 話をしているなかなか言いたいことを言い出せないこと |
| 言うべきことを言い出せないこと | 「言い損じる」 | 言うべきことを言い間違えること |

また、瞬間動詞の V1 と比べれば、「未完遂」表現の性質から主体動作の継続動詞の V1 と自然に共起すると考えられる。実際に共起する例を観察すれば、[乗りそこなう]・[乗りあぐねる]・[乗り損じる]のようによすべての未達成語構成要素と結合できる例もあり、[歩きそこなう]・[歩きあぐねる]があるものの、[歩き損じる]がないような例もあることがわかる。では、どうしてこのような相違が現われるのか。おそらく「-そこなう」・「-あぐねる」・「-損じる」の事象表現機能によるものと思



われるが、この点については次節で外部事態を考慮に入れてあらためて考察する。

以上、「未完遂」表現において、未達成語構成要素と接続する V1 の種類と性質をまとめると、19)と 20)のようになる。比較するために「未遂行」表現の場合を一緒に示しておく。

19) a. 「未完遂」の未達成語彙

| 未完遂 \ V1 | 「思い-」 | 「言い-」 | 「乗り-」 | 「渡し-」 | 「歩き-」 |
|----------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 「-そこなう」 | × | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 「-あぐねる」 | × | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 「-損じる」 | × | ○ | ○ | ○ | × |

b. 「未遂行」の未達成語彙

| 未遂行 \ V1 | 「思い-」 | 「言い-」 | 「乗り-」 | 「渡し-」 | 「歩き-」 |
|----------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 「-そこなう」 | × | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 「-あぐねる」 | ○ | ○ | × | ○ | × |
| 「-損じる」 | × | ○ | ○ | ○ | × |

20) a. 「未完遂」表現における未達成語彙

| 構成要素 \ V1 | 種類 | 表現性質 |
|-----------|--|---|
| 「-そこなう」 | a. 心理的・思考的性質の動詞と結合しない。 b. 一般的に主体動作の継続動詞と接続する。 c. 言語話者のとらえ方によって瞬間動詞と接続することもある | a. 心理的・思考的性質の動詞は実際の行動がないために、「未完遂」の表現にならない。 c. V1 の進行中の局面に着目するため、「未遂行」と異なる意味合いを帯びる。 |
| 「-あぐねる」 | | |
| 「-損じる」 | | |



b. 「未遂行」表現における未達成語彙

| 構成要素 \ V1 | 種類 | 表現性質 |
|-----------|-------------------------------|----------------------------------|
| 「-そこなう」 | 具象的な動作動詞の場合と比較的接続しやすい | V1 を実行しようとする局面を表す |
| 「-あぐねる」 | 思考動詞 | ずっと心の中にある表現 |
| | 瞬間動詞 | 動作を実行する前のためらい |
| 「-損じる」 | 前提条件が考えられない「思い-」「歩き-」とは接続しがたい | 「V1 の主体が何かの目的で動作を実行する」という条件で表現する |

3.2 LCS の相違

「未完遂」段階における未達成語構成要素の LCS をどのように表示すればいいのだろうか。ここでは、各未達成の語構成要素の LCS をもとに、「未遂行」段階のそれと比較しながら、その異同を考えてみる。基本的に 21)~23) のように表示することになると思われる。a)は「未遂行」であるが、b)は「未完遂」である。

21)a. 「-そこなう」: <V1 の動作を実行せずに、事態を悪い状態にする>
 = [[[[]x ACT ON []y] CAUSE [BECOME [[] BE AT - [bad]z]]]]

b. 「-そこなう」: <動作の実行がおこなわれていて、不成功に終わる>
 = [[[[]x ACT ON []y] CAUSE [BECOME [[] BE AT - [bad]z]]]]

22)a. 「-あぐねる」: <V1 の動作を実行せずに、困り果てる状態になる>
 = [[[[]x ACT ON []y] CAUSE [BECOME [[] BE AT - [a loss]z]]]]

b. 「-あぐねる」: <動作の実行がおこなわれていて困り果てる>
 = [[[[]x ACT ON []y] CAUSE [BECOME [[] BE AT - [a loss]z]]]]



23)a. <V1の動作を実行せずに、結局することを失敗する>

= $[[[]x \text{ ACT ON} []y] \text{ CAUSE} [\text{BECOME} [[] \text{ BE AT-}[\text{failed}]z]]]$

b. 「-損じる」: <動作が実行されていて目的状態に達せずに失敗する>

= $[[[]x \text{ ACT ON} []y] \text{ CAUSE} [\text{BECOME} [[]y \text{ BE AT-}[\text{failed}]z]]]$

b)の「未完遂」の未達成表現は、主体が動作を実行したが、思ったとおりの結果にはならないことを表すものである。このことから、LCSにおける動作の意図とその行為 ($[[]x \text{ ACT ON} []y]$) および未達成の状態 ($[[]y \text{ BE AT-}[\text{failed}]z]$) の意味要素を前景化し、太字でとりたてるのに対して、目的結果に至らないために「変化 (BECOME)」のところをとりたてずに表示するようになる。一方、下位事象に対する影響 (CAUSE) は、外部事態の他動性によってとりたてたりしなかったりするために、特別に表示せずにそのまま示しておく。このように規定すれば、a)の「未遂行」表現のLCSとの異同が明らかになる。

未達成の結果状態に関しては、「未完遂」表現と「未遂行」表現とが同じものになる。「未遂行」状態も「未完遂」状態も、行為の局面との相違はあるものの、目的状態に達していない点では変わりがないということである。すなわち、「-そこなう」が<V1の動作の実行がうまくいかない ($[[] \text{ BE AT-}[\text{bad}]z]$) >、「-あぐねる」が<ずっと実行していてもなかなかできずに困る ($[[] \text{ BE AT-}[\text{bad}]z]$) >、「-損じる」が<V1の事態をしていて失敗する ($[[]y \text{ BE AT-}[\text{failed}]z]$) >のように、外部事態に対する言語話者のとらえ方において「未遂行」表現の結果状態と同じである。

他方、「未遂行」表現とは二つの相違点がみられる。ひとつは、動作を実行する意図のありかに関しては「未遂行」表現と「未完遂」表現と



の間の異なりである。「未遂行」表現には「意図があっても実行に移せなかった」場合がほとんどである。それに対して、「未完遂」表現では、動作を実行する意図も行為の遂行も含まれるために、([[]x ACT ON []y]) の部分を取りたてて、太字で表示することになる。ただし、意図した動作の実行に関しては、三者の性質は異なるものと思われる。「-そこなう」の「未完遂」は、V1の事態をアスペクト的側面に着目し、V1の動作主体が事態を実行していて不成功に終わったことを意味するのである。「-あぐねる」は、「攻めあぐねる」のように、V1の行為を執行しているが、何らかの事情でなかなかうまくいかないという「未完遂」事態から、「動作を実行する持続性」を強調するのである。「-損じる」は、「主体が何かを実行したが、結果からみて、目的の状態にまでは到達していない」の目的状態の未達成を意味するのである。もうひとつは、行為の実行による事物の影響である。「未遂行」表現では、行為の実行がないために事物への影響がないのに対して、「未完遂」表現は、動作の実行を通して事物に働きかけたり、影響をあたえたりすることがある。たとえば、10)~12)の③と④のV1の場合、事物に影響をあたえる事態が少なくない。それを表示するには、下位事象に対する影響の意味要素(CAUSE)を太字でとりたてて表示するようになる。

4 文脈的レベルにおける「未完遂」事象

前節では、「未完遂」段階における各未達成語構成要素の語構成論的性質を分析した。そこでは「未遂行」段階との異同を考えたいので、結合したV1の種類と性質を検討した。ただし、いまだ二つの課題が残っている。ひとつは、同じ性質のV1と接続する未達成語構成要素の「未完遂」表現の間にどのような相違があるのかという問題である。もうひとつは「歩き損じる」のような場合、なぜその結合ができないのかを説明することである。以下、各語構成要素の事象表現機能をふまえて、そ



れぞれの外部事態を観察しながら考察する。まず、「乗り-」の例から考えてみる。

24)オレは、電車に乗りそこなって、冬の底冷えがする京都駅や、東京駅の外で寝たことあるよ。 blogs.yahoo.co.jp/philippineyoitoko/archive/2012/2/22

25)障害者がエスカレーターに乗るタイミングがわからず乗りあぐねているのを見ること数知れず。 viva2ch.net/train/1189087705.html

26)今日のツアー目的は、渡船の完全制覇、このままでは乗り損じてしまう、他のメンバーには先行してもらい、我々3名は仕方なく15分待って次の船に往復乗船します。 blogs.yahoo.co.jp/natsumikan614/34193307.html

24)の「乗りこそなう」は「駅へ行ったが、最終電車に間に合わずに乗れなかった」ことである。「駅へ電車に乗りに行く」という行為を実行していたが、「電車に乗れなかった」のである。すなわち、「乗る」という行為を完全に遂行していない局面を「-そこなう」によって表現するものである。また、25)の「乗りあぐねる」は、「乗りに行く」という行為の実行に関する点では「-そこなう」と同じであるが、「乗れない」という結果に重点をおくのではなく「行為の実行がうまくいかず、困り果てる」状況を表すものである。26)の「乗り損じる」は、渡船の完全制覇という目的のもとで船から船へと乗り続けることから生じる事態である。行為の実行に関しては、ほかの二者と同じであるが、目的意識のもとに行為を実行する点でほかと異なると思われる。つぎに、「渡し-」を例に瞬間動詞のV1の場合を検討してみる。

27)この時、買っておいいたマーライを渡そうと舞台前まで行ったのですが、この曲、踊りが決まりすぎていて渡すタイミングが見つからず、結局、渡し損なっていました。

blog.livedoor.jp/kapiraja1968/tag/タカテーン・チョンラダー



28)微笑ましい二人を尻目に、首筋まで真っ赤になって俯いているイザークに、ディアッカはミルクティーの入ったカップを渡しあぐねていた。「…おーい」「……」呼んでも応答がないので、仕方なく隣に腰掛ける。

id15.fm-p.jp/.../index.php?...

29)お客につり銭を渡し損じて、100円玉がレジの下に転がってしまった。

blogs.yahoo.co.jp/yuzu20030313/17941003.html

一般的にいえば、瞬間動詞の場合は、行為の遂行にさしかかる前の「未遂行」表現になりやすいと思える。しかし、言語話者の外部事態に対するとらえ方によっては、「未完遂」の表現になることもある。27)の「渡しそこなう」は、相手にモノを渡す局面にかぎらず、モノを準備する局面から、相手のところへ移動する局面を経て、モノを渡しに待っている局面まで、より広範囲でとらえるのである。「渡す」行為を実行し続けるが、何らかの理由でモノを渡せなかったことになるわけである。また、28)の「渡しあぐねる」は「ミルクティーの入ったカップを渡しに行く」という行為の実行に関する点では「-そこなう」と同じである。しかし、「渡せない」という結果に重きをおくのではなく「行為の実行がうまくいかず、困り果てる」状況を表すものである。29)の「渡し損じる」は、会計したあとのつり銭を客に返さなければならない状況のもとで、それをうまく実行できずにつり銭を落としてしまったことから生じる事態である。行為の実行に関しては、ほかの二者と同じであるが、返却目的のもとで行為を実行する点ではほかと異なると思われる。

以上、3.1 で検討した各未達成の構成要素の V1 の外部事態を検証しながら、それぞれの異同を明らかにした。「-そこなう」・「-あぐねる」・「-損じる」の V1 には、主体動作の継続動詞ならば「未完遂」表現と解釈するのに対して、主体動作の瞬間動詞ならば「未完遂」表現と解釈することがある。また、それぞれの外部事態は「-そこなう」・「-あぐねる」・「-損じる」の事象表現機能によって、事態解釈が異なってくる。



まず「-そこなう」は、「V1が表す事態のある局面やその起こり方を限定して表現する」という局面付与の事象表現機能⁴をもっており、それによって「V1の行為を実行していて、何かの理由でそれができなかった」ことを表すのである。また「-あぐねる」には、「V1の動作・行為が実行し続けて、うまく行かずに困り果てる局面を表現する」という表現機能がある。「-あぐねる」の事象表現機能によって「V1の行為を実行していても、なかなかうまくいかずに困る」状態を表す。さらに「-損じる」は、「主体が何かの目的で動作を実行するが、事態進行がうまくいかずに目的状態に達しない、あるいは何かの原因で失敗する」という事象表現機能によって、「何かの目的や前提のもとでV1の行為を実行していて、それがうまくできないこと」を表現する。そうであるとすれば、「歩き損じる」が存在しない理由も説明できる。

一般的に言えば、「歩く、走る、とぶ、急ぐ、駆ける、はう、泳ぐ」のように、単純に空間の移動に着目するならば、「-損じる」と結合しにくいはずである。しかし、何かしなければならぬ事情、あるいは何かの目的のもとで行為の実行がうまくできなかったことを表現するならば、これらのV1は「-損じる」との結合することができるようになるのである。

30)強い向風の中、12秒3台をマークした1年生100mの田中、走り損じながら10秒7台でまとめた100m柵橋に今後の期待が膨らみます。

kimagure-kos.blogzine.jp/blog/2008/07/79_wed.html

31)普段からプロ野球ばかり見ていると、高校野球のレベルなどしょせん全国大会であっても、打ち損じ・投げ損じ・守り損じ・走り損じを見に行くようなものであり、見ていて安心できないシーンばかりである。

blog.livedoor.jp/wwwxyyy/archives/51005732.html

⁴ 黄(2011)による。



32)これは、飛び損じたジャンプのリカバリー（別のジャンプを連続にするなどして取り返す事）をしようとして起こる事なのですが、…。

kennel-nikki.seesaa.net/article/198776746.html

30)と 31)の「走り損じる」も 32)「飛び損じる」も、ただ空間移動の未達成を表わすだけではなく、何かの目的のもとで動作の実行がうまくできなかったことを表すものである。すなわち、両者は、スポーツ競技という目的のもとで走ったり飛んだりしたが思った結果にならないことを含意するものである。もし、目的意識がなく行動を実行する局面に注目するとすれば、「走り損じる」・「飛び損じる」よりも、「走りそこなう」・「飛びそこなう」と表現するほうが自然であろう。これによって「未遂」表現においては、「-そこなう」と「-損じる」の相違もうかがうことができるだろう。

以上、「未遂」表現においては、「-そこなう」・「-あぐねる」・「-損じる」の相違を論じてきた。それぞれの異同をまとめると、33)のようになる。より明らかにするために「未遂行」表現の場合も一緒に示しておく。

33) 「未遂」における未達成表現

| 語彙 | 未達成過程 | 前提 | 行為の進行 | 行為の結果 |
|---------|-------|------|---------------|-------------|
| [-そこなう] | | × | V1の行為を実行している。 | うまくできずに失敗する |
| [-あぐねる] | | × | | うまくいかずに困る |
| [-損じる] | | 目的意識 | | 目的に達せずに失敗する |

34) 「未遂行」における未達成表現

| 語彙 | 未達成過程 | 事態の成立背景 |
|---------|-------|---------------------|
| [-そびれる] | | 忘却かタイミングの問題による未遂行 |
| [-そこなう] | | 事態の流れによる未遂行 |
| [-あぐねる] | | 心の中で迷うことによる未遂行 |
| [-損じる] | | やるべきなのにそれをやりだせない未遂行 |



5 むすび

本研究は、日本語の未達成事象における「未完遂」の局面をとりあげ、「-そこなう」・「-あぐねる」・「-損じる」によって形成された語彙を対象に考察を行ったものである。「未遂行」局面と比較しながら、同じ「未完遂」の局面を表現する「-そこなう」・「-あぐねる」・「-損じる」の異同を明らかにすることができた。

語彙的レベルにおいては、21)~23)のようにそれぞれ異なった LCS をもっているが、特に事態未達成の状態に関するとらえ方には相違がみられるのである。また、三者が接続する V1 の性質も異なることが分かった。《アスペクト・ヴォイス》モデルによると、「-そこなう」・「-あぐねる」・「-損じる」は②~④の V1 に接続しているが、18)~20)のようにそれぞれ異なった性質の V1 に接続するのである。一方、文脈的レベルでは、成立背景の相違によって 33)のように「未完遂」局面の解釈も異なることが明らかとなった。[-あぐねる]の未完遂事態は、「その時に動作主体がこれ以上行為を実行しにくいことに困り果てる状態を表現する」のに対して、[-そこなう]と[-損じる]は「動作主体が行為を完全に実行できずに、目的への未達成で終わる状態を表現する」のである。

また、「未完遂」の局面を捉えるには、外部事態に関する言語話者の事象把握のかかわりも欠かせないことがわかった。それは、同じ「未完遂」の局面の表現にもかかわらず、外部事態に対する言語話者のとらえ方の相違によって[-そこなう]・[-あぐねる]・[-損じる]の言語形式が選ばれており、それぞれ異なった事象が表現されるのである。言語研究に際して、言語表現・外部事態・言語話者の三要素を考慮に入れる必要があることを示唆するといえよう。

本研究は、日本語の未達成事象を解明するものとして位置づけることができる。しかし、未達成の事象表現では「不成功」の局面に関する研究が残っており、「不成功」局面の解明を今後の課題としたい。



参考文献

- 石井 正彦 2007 『現代日本語の複合語形成論』 ひつじ書房
- 由本 陽子 2004 「語形成のモジュール性と意味解釈 —『V+そこなう』『V+落とす』における否定の意味解釈について」 KLS24、pp.45-54
- 2005 『複合動詞・派生動詞の意味と統語』 ひつじ書房
- 影山 太郎 1993 『文法と語形成』 ひつじ書房
- 2010 「動詞の意味と統語構造」『ひつじ意味論講座1 語・文と文法カテゴリーの意味』 ひつじ書房
- 黄 其正 2004 『現代日本語の接尾辞研究』、溪水社
- 2009a 「未達成を表す接尾辞に関する研究 —{-損じる}を対象とする一考察」『2009年育達人文社会学術研究会論文選』 pp. 123-135
- 2009b 「未達成性の接尾辞に関する研究 —「-あぐねる」・「-あぐむ」を対象とした一考察」『2009年台大日本語文創新国際学術研究会論文集』 pp. 77-89
- 2011 「『-そこなう』の事象表現機能についての一考察」『台湾日本語文学報』30、pp. 219-244
- 2013 「未達成事象における『未遂行』の一研究」『育達人文社会学報』 pp. 145-162
- 斎藤 倫明 1992 『現代日本語の語構成論的研究—語における形と意味—』、ひつじ書房
- 2004 『語彙論的語構成論』、ひつじ書房
- 張 威 1998 『結果可能表現の研究』 くろしお出版

